

27PA-pm006

インターネットから購入したいいわゆる健康食品の変遷と医薬品成分の含有結果
○小島 尚¹, 滝沢 竜ノ介¹, 中村 優太¹, 宮田 悠花¹, 甲斐 茂美² (¹帝京科学大, ²神奈川衛研)

急速な高齢化社会を迎え、生活習慣病の罹患者が増加するとともに食生活の改善やサプリメントへの関心が高まっている。更に、平成27年4月から機能性食品がスタートするなど疾患や健康にかかわる食品を取り巻く環境も大きく変化している。しかし、いわゆる健康食品に関連した健康被害や医薬品医療機器等法に違反した事例は以前と同様にみられる。特に、生活習慣病やメタボリックシンドロームへの関心が高まり、また、女性学生の痩身願望が高いことから、我々は痩身を標榜したいいわゆる健康食品に焦点を絞って実態調査を行ってきた。第135年会では、女子大生の視点からサプリメントや健康食品に対するアンケート調査を行うとともに、簡便に入手できるインターネットのサイトから購入したサプリメントに不当に添加されている医薬品成分に関する検討を行って結果を報告した。今回の報告では先の報告で調査した製品がいまだに入手できるか、また、そこに含まれていた医薬品成分は今回入手できたものでも同様に認められるかなどを検討し、いわゆる健康食品の持つ課題を検討したので報告する。

検討に用いた健康食品は前回、医薬品成分を検出した製品について再度、入手できたものについて医薬品成分の含有の有無を測定した。その結果、第135年会では18検体中11検体からフェノールフタレインの含有を確認した。今回でもフェノールフタレインが最も多く半数の検体から検出されている。前回、検出した検体から同様に検出したものがある一方、HPLCのクロマトグラムが大きく異なるものがあった。2年前に医薬品成分を同様に含有する製品が存在すること、また、名称は同じでも含有する成分を変えたものがあった。現在、詳細に検討を行っているが、その他の医薬品成分の含有も併せて示したい。